

# 豊岡市の地方創生(=人口減少対策)

減り続ける豊岡市の人口

2010年 **85,592人** ➡ 2040年 **57,608人** (△33%) ➡ 2060年 **38,044人** (△56%)

※ 2015速報 82,269人

## 減少の要因は…

高校卒業時(15~19歳)に進学・就職で大きな **転出超過**

大学卒業時(20~24歳)に就職等で大きな **転入超過**

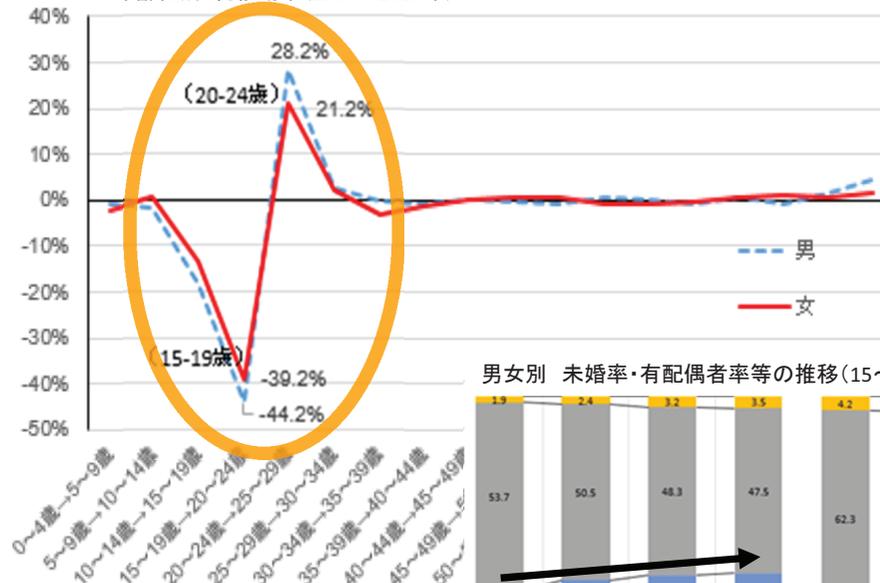
しかし、10代の**転出超過**で減った人口を20代の**転入超過**で回復できていない。(回復率は35%)

出産適齢期の夫婦の数も減少  
(出生数が低下)

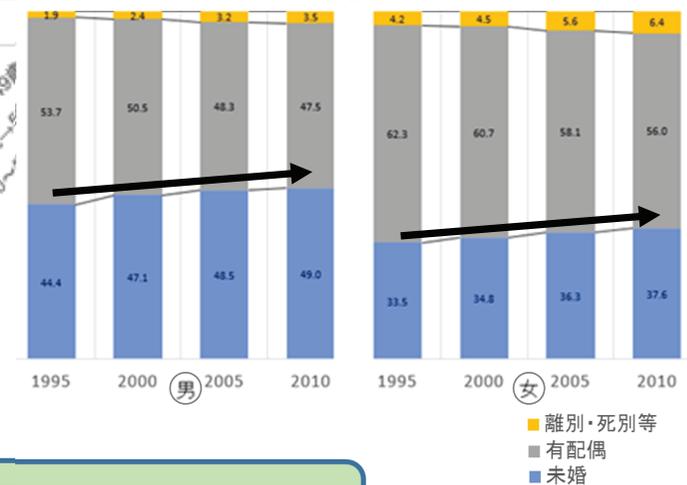
さらに

未婚率も上昇

年齢性別・純移動率(2005→2010年)



男女別 未婚率・有配偶者率等の推移(15~49歳/1995~2010年)



**若者の獲得に特化した戦略が必要**



## 人口減少下にあっても地域活力を維持するには…

- 1 たとえ人口減少の緩和策が功を奏したとしても、人口は間違いなく今より減り続ける。
- 2 そんな状況下で地域の元気を維持するには、地域社会・地域経済・地域文化のあり様の質的な転換を図るほかはない。
- 3 しかも、限られた投入資源を考えると、量的緩和策を通じて同時に質的転換を図るような戦略を立てる必要がある。

## 大都市は「豊か」で、地方は「貧しい」か。

- 1 よく言われる「大都市は豊か」で「地方は貧しく、つまらない」というイメージは本当か？  
近年、大都市の暮らしに「空虚さ」を感じ、人や自然との「つながり」を実感できる地方の暮らしに「豊かさ」を見て取る若い人たちが増えている。（都市住民の31.6%が農山漁村地域への定住願望あり…H26.8月内閣府実施世論調査）
- 2 ICTの浸透などにより、世界と直接に結ばれ、また、地方でできる仕事が増えつつある。
- 3 グローバル化が進む今の世の中でこそ、逆にローカルであること（地域性・固有性）が輝くチャンス。
- 4 地方における「豊かな暮らし」と「やりがいのある仕事」の両立の可能性が出てきている。

### つまり！

「豊岡には、大都市とは別の価値観に基づく豊かな暮らしとやりがいのある仕事がある」ことを自覚的にとらえて豊岡で暮らし働く若者が増える  
 →人口減少の緩和（量的緩和）につながることはもちろん、地域社会・地域経済・地域文化のあり様と豊岡の人々の自己イメージを変え（質的転換）、新たな地域活力への創造へとつながっていく。

## 豊岡市の地方創生推進の手順

- 1 豊岡に住む人々が「豊岡で暮らすことの価値と魅力」をあらためて探り、**認識する**。
- 2 その価値と魅力を、世界と直接結ばれる中でさらに**高める**。
- 3 その価値や魅力を若者や子供たちに**伝える**。
- 4 あわせて、「多くの子どもでにぎやかな家庭を持つ若者が増える取組」を進める。



地方創生を実現するための戦略体系（ロジック・モデル）

※第2版（H28. 7. 26改訂）

上位目的（最終アウトカム）

豊岡に暮らす価値を認め、豊岡で暮らすことに自信と誇りを持って住む人が増えている

戦略目的A  
（中間アウトカム）

暮らすなら豊岡と考え、定住する若者が増えている

主要手段 A01	豊岡の暮らしの「豊かさ」が内外に知られている（情報発信）
01-01	様々なメディア等で豊岡が取り上げられている
01-02	WEB や SNS 等で豊岡の情報が共有されている
01-03	豊岡の魅力を語る人々が世界中にいる
01-04	豊岡を巣立った人たちが豊岡とつながっている
01-05	定住を検討する人に寄り添って、情報が提供されている
主要手段 A02	人々が豊岡の「豊かな暮らし」を楽しんでいる（高付加価値・成熟化）
02-01	やりがいと安定した収入が得られる仕事が増えている
02-02	新たな事業や仕事にチャレンジする人が増えている
02-03	人とつながり、支え合う喜びを感じる人が増えている
02-04	自然とのつながりを楽しむ人が増えている
02-05	自分の時間を持ち、暮らしを楽しむ人が増えている
02-06	外から豊岡とつながり、行き来する関係人口が増えている
主要手段 A03	豊岡で人々が世界と出会っている（ローカル&グローバル）
03-01	世界中から人々が来訪し、豊岡を楽しんでいる
03-02	メイドイン豊岡が世界に広がっている
03-03	国内外から優れた人材が集まり、豊岡の魅力を高めている
03-04	世界の人々と対等に向き合う人材が増えている
主要手段 A04	子どもたちのふるさとへの愛着が育まれている（次世代育成）
04-01	子どもたちが豊岡のことをよく知っている
04-02	子どもたちが様々なコミュニティの中で役割を果たしている
04-03	子どもたちが豊岡で外国人とのコミュニケーションを楽しんでいる
04-04	子どもたちの想像の翼、行動の翼が世界に羽ばたいている

戦略目的B  
（中間アウトカム）

多くの子どもでにぎやかな家庭を持つ若者が増えている

主要手段 B01	若い夫婦の数が増えている
01-01	多種多様な出会いの機会が充実している
01-02	交際・結婚に向けた独身者へのきめ細かな支援体制が充実している
01-03	若者が集い、交流する場が増えている
主要手段 B02	夫婦一組あたりの子どもの数が増えている
02-01	出産への応援がある
02-02	育児への応援がある
02-03	仕事の両立への応援がある
02-04	パートナーの応援（理解と協働）がある
02-05	まちを挙げた子育てへの応援がある

移住・定住の戦略体系

結婚促進・多子出産の戦略体系

これらの戦略体系をもって、次の目標を達成

2040年の人口：このままだと57,608人 → **62,165人**（+4,557人）

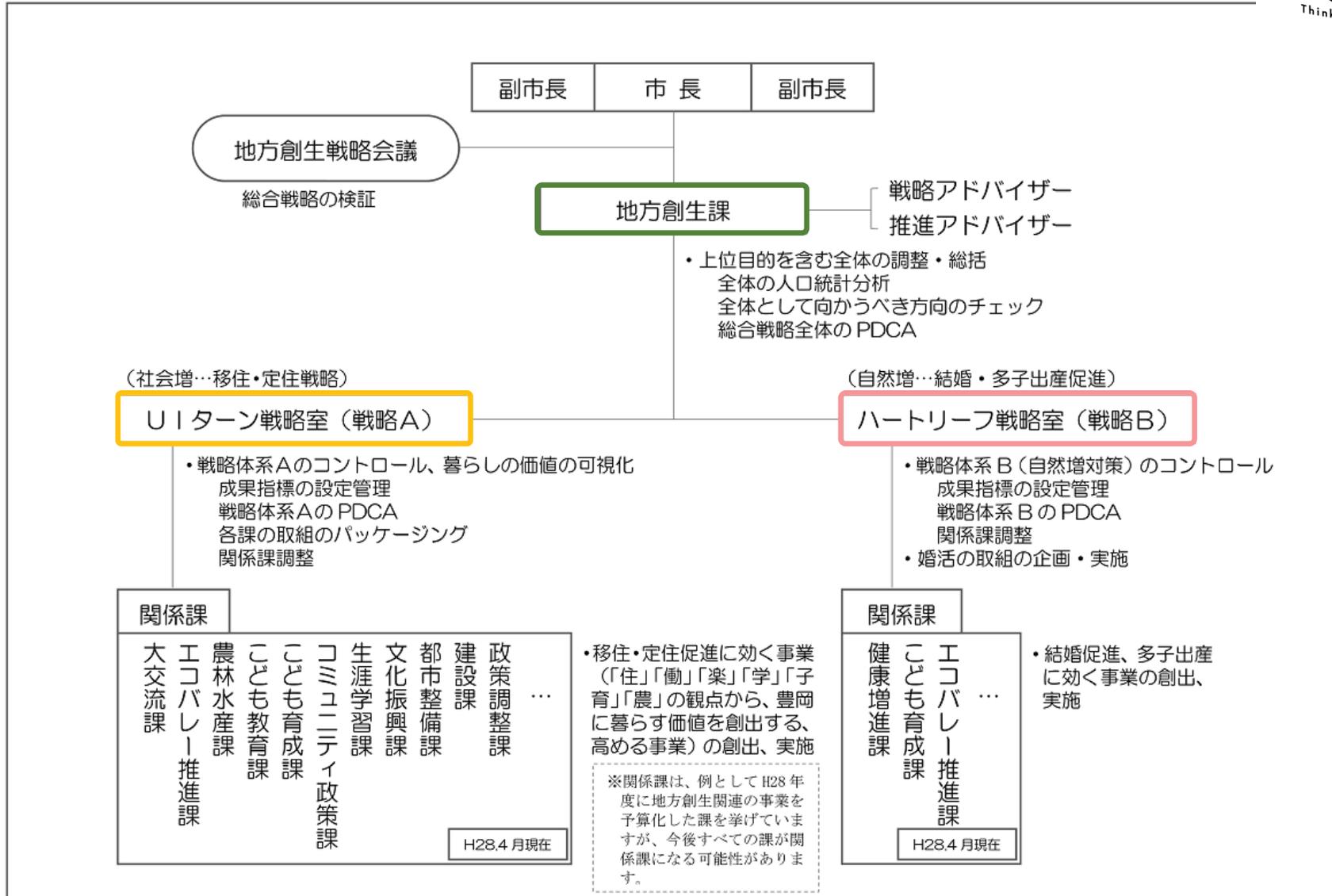
・若者回復率 ※10代の転出超過数に対して、20代の転入超過数が占める割合

現在 35% → 2025年までに **50%**

・合計特殊出生率 ※1人の女性が一生の間に持つ子供の数

現在 1.82 → 2035年までに **2.3**

豊岡市の地方創生に係る庁内の推進体制・役割（H28 年度）



## 豊岡市の主な基盤産業

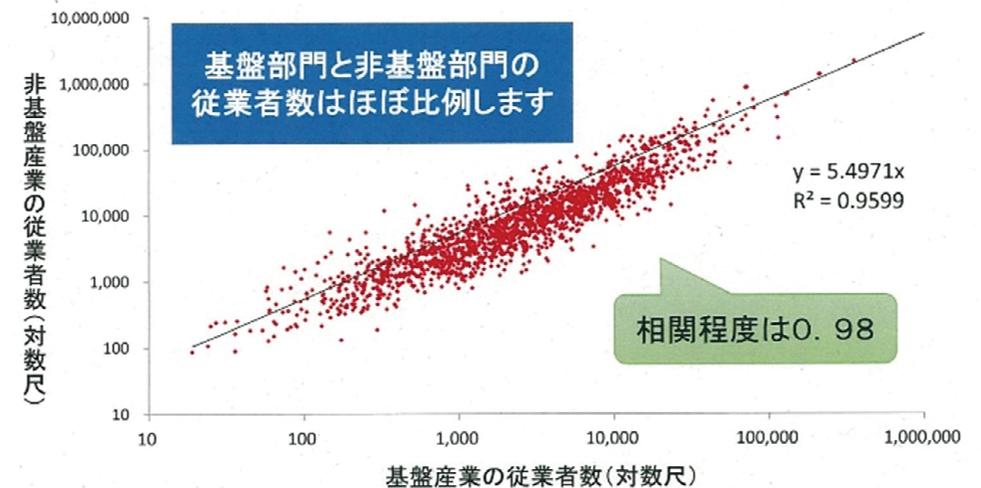
産業部門	移出額 (億円)	純移出額 (億円)
宿泊・飲食業	362	235
商業	331	▲157
プラスチック製造業	157	63
かばん製造業	87	79
電子部品製造業	85	30
電気機械製造業	75	5
輸送機械製造業	71	▲46
金属製品製造業	52	3

①

純移出額の高い産業  
(=域外マネーを獲得する産業)に  
集中して成長を推進する

②

※ 基盤産業の振興は、非基盤産業にも好影響を及ぼす



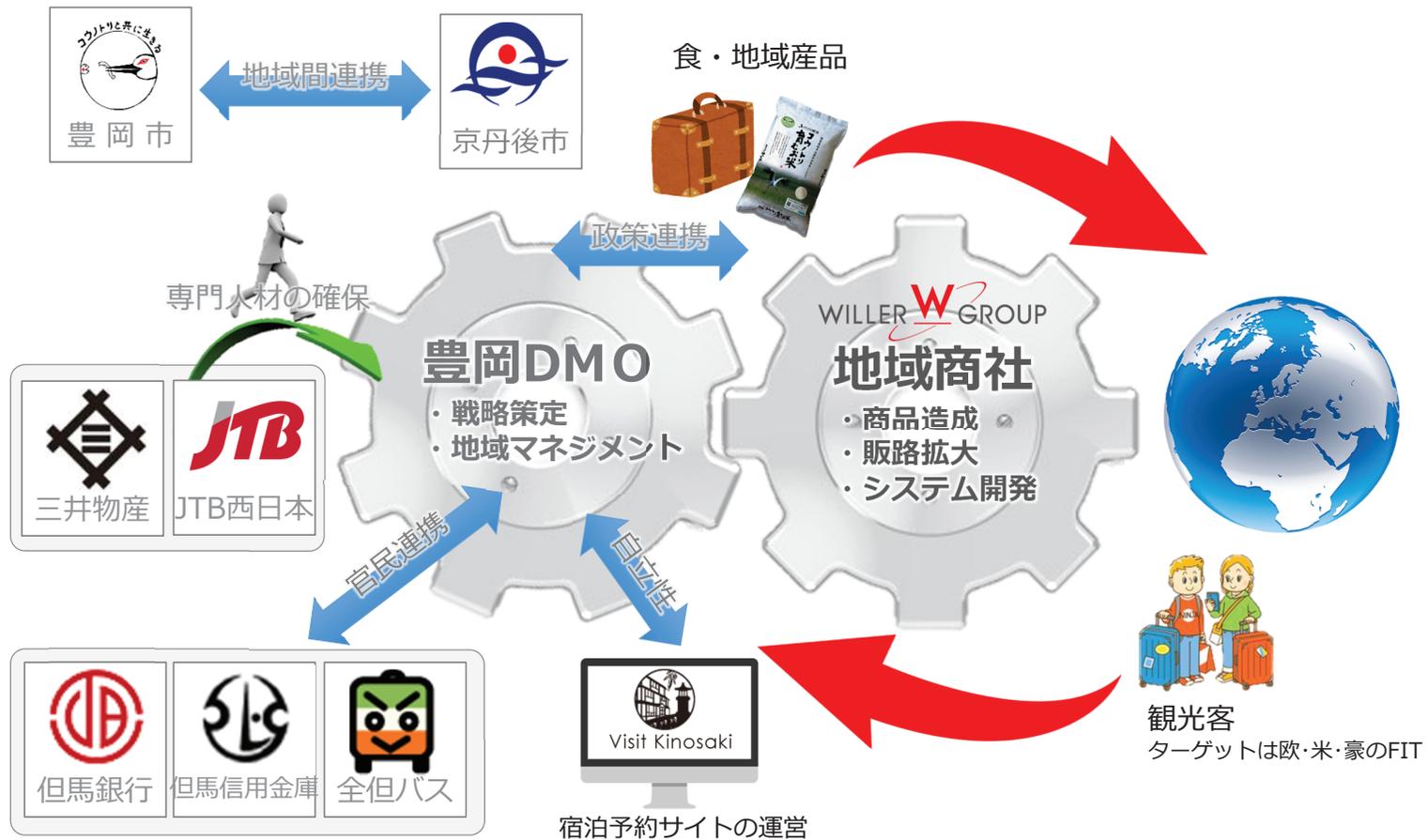
資料: 豊岡市産業連関表(2011年版)

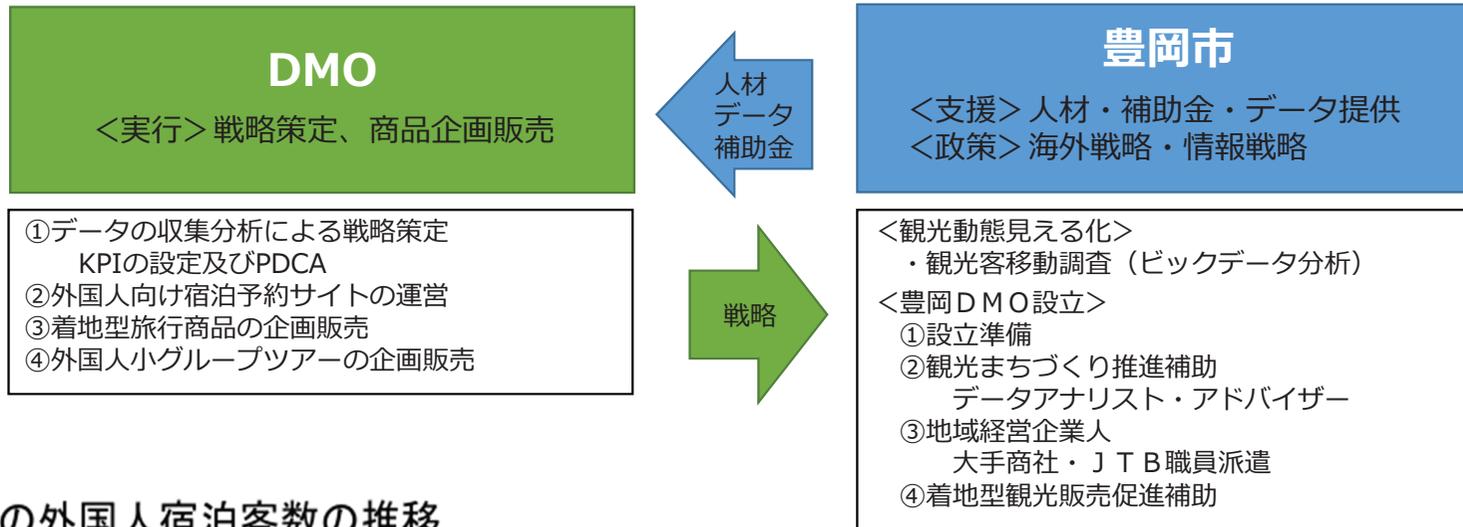
資料: 経済センサス-基礎調査- (総務省), 平成21年

# 豊岡版DMO×地域商社

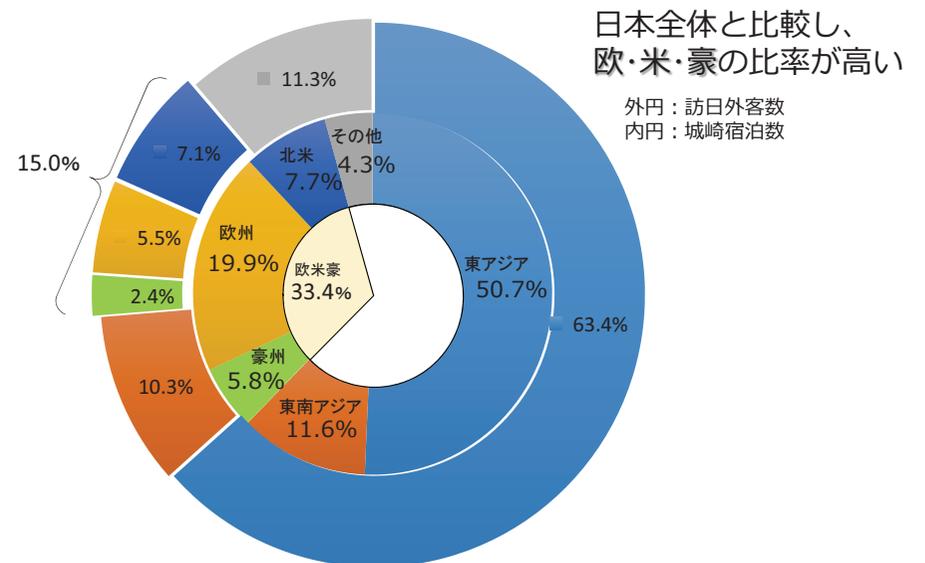
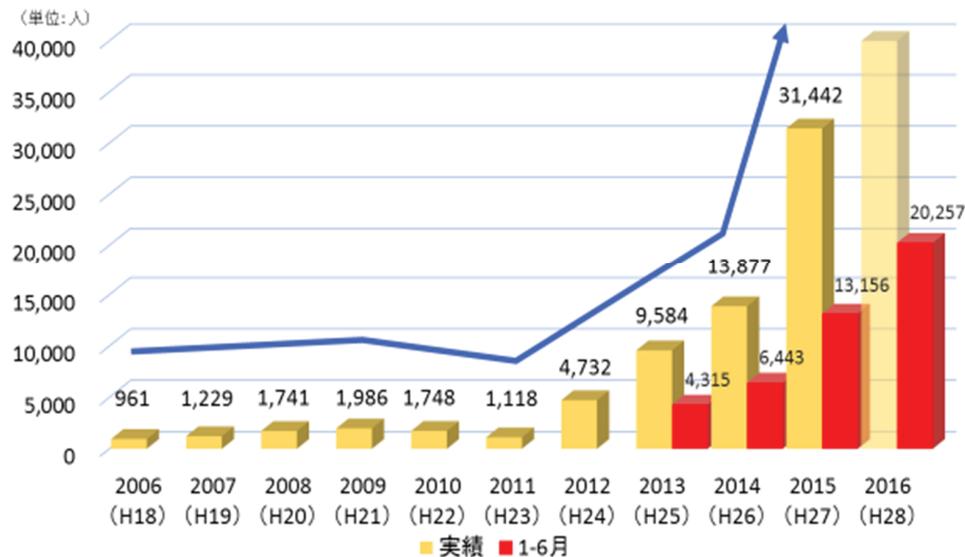
Destination  
Management/Marketing  
Organization

官民連携で地域の稼ぐ力を牽引





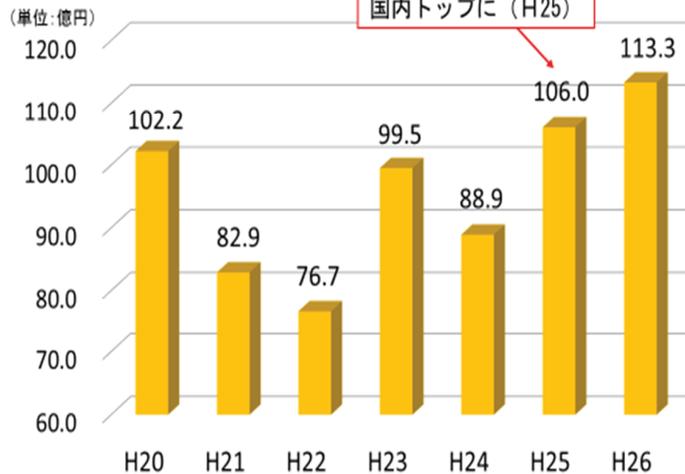
### 城崎温泉の外国人宿泊客数の推移



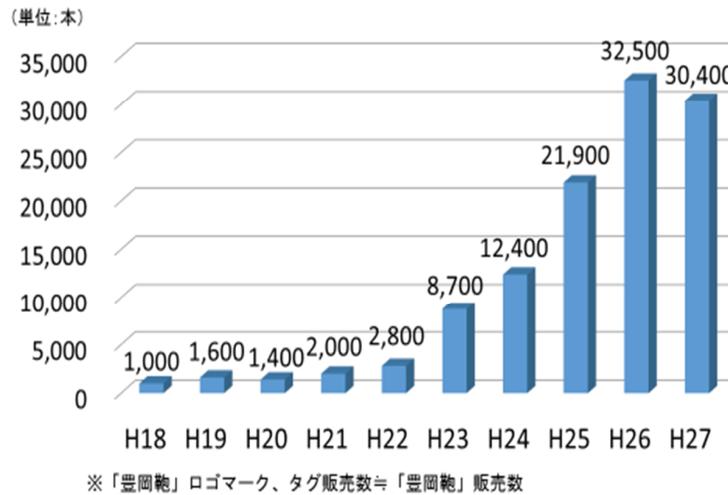
# 豊岡市「靴産業で働き、豊岡で暮らす」若者増加推進事業



## かばん出荷額の推移



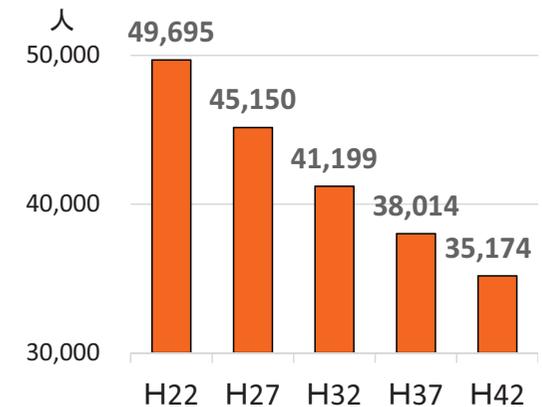
## 「豊岡靴」販売数の推移



## 求められる従業員の数

	H27	H32	増減
売上 (億円)	903	111.1	+20.8
従業員 (人)	530	770	+240

## 生産年齢人口の推移



## トヨオカ・カバン・アルテザンスクール



H26 6人受講 5人市内就職  
 H27 9人受講 H28 9人受講予定  
 全員市外出身(北海道～福岡県)

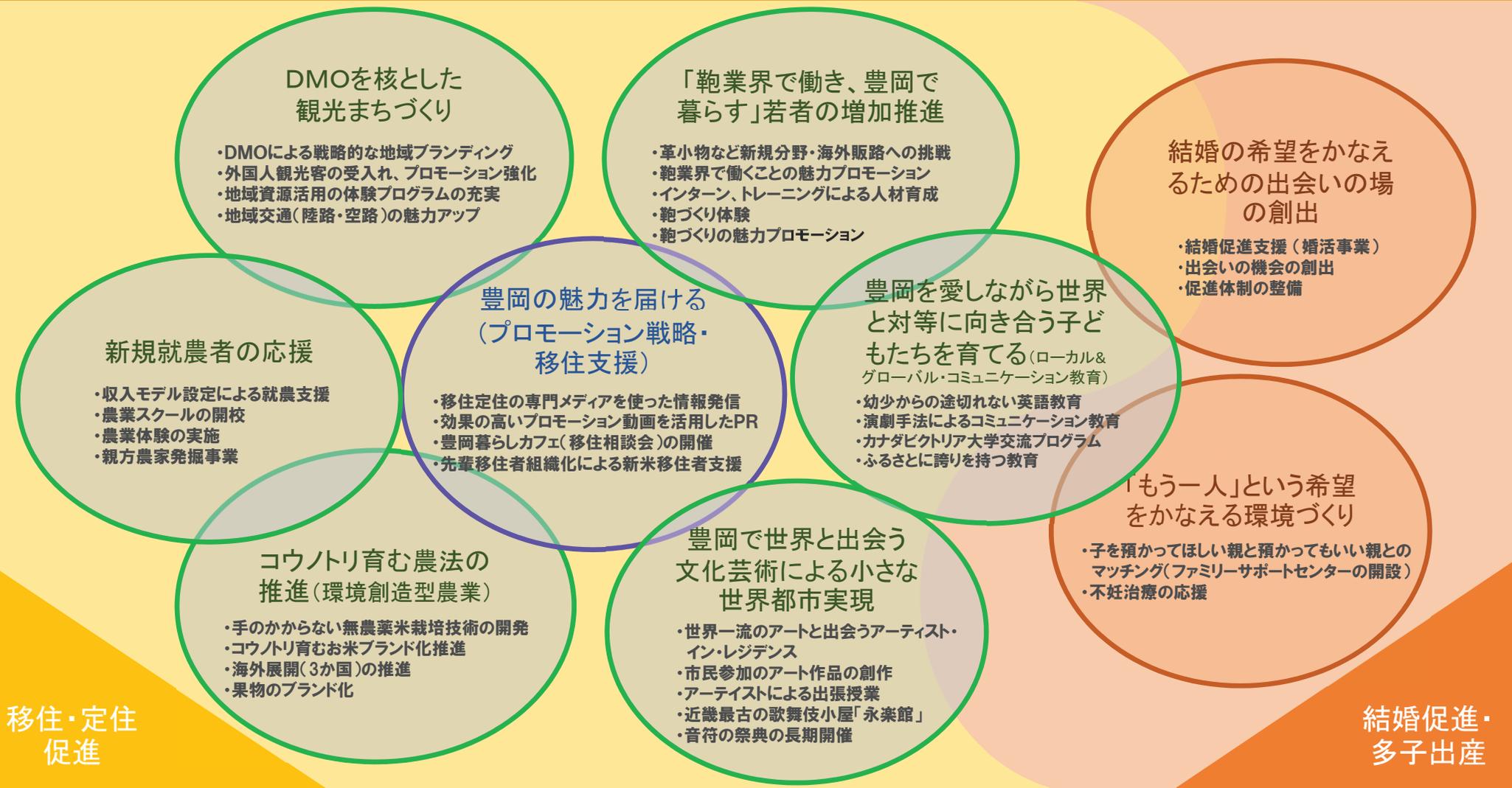
「靴産業活性化戦略検討会議」(H28年設置)  
 豊岡靴協会、金融、豊岡市が一体となって、  
 ①靴産業成長  
 ②仕事の魅力向上  
 ③ターゲットへの魅力発信等 の具体策検討・実施

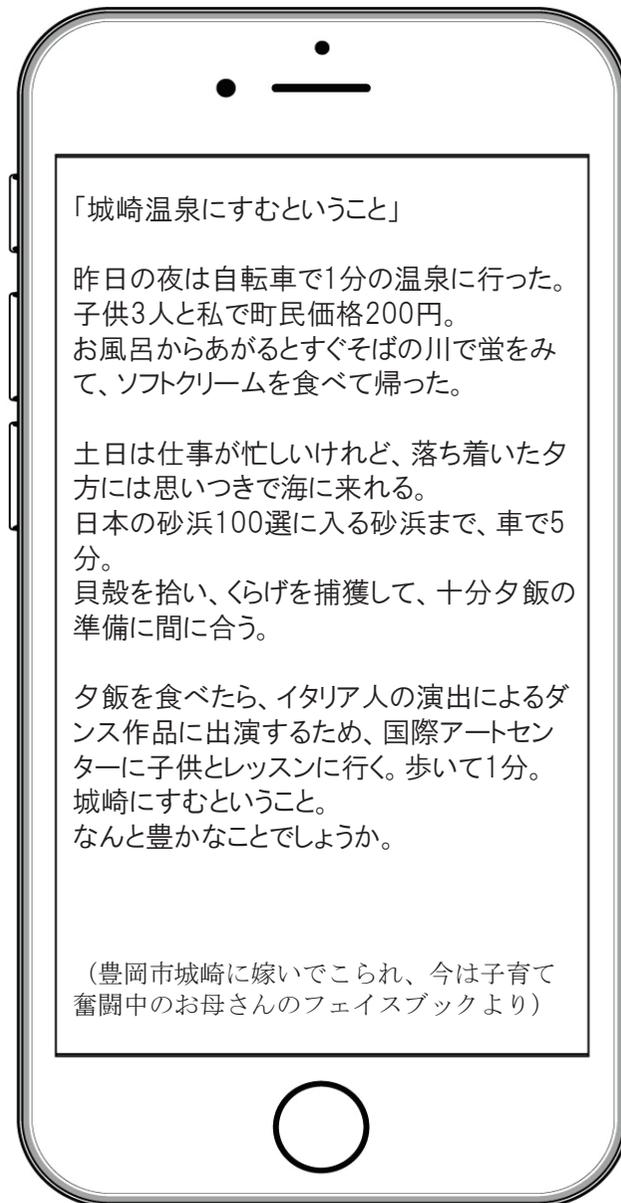


**人口減少に歯止めをかける+靴産業の成長を図る**



## 地方創生の推進に向けた具体的な取り組み





## —豊岡市の地方創生の最終目的—

豊岡に暮らす価値を認め、  
豊岡で暮らすことに自信と誇りを  
持って住む人が増えている

～人口減少の量的緩和と、地域社会・経済・文化の質的転換をめざして～



## 【ぜひ、こちらもお覧ください！】

○ 豊岡市地方創生の「人口ビジョン」と「総合戦略(第2版)」

<http://www.city.toyooka.lg.jp/www/contents/1469776513090/index.html>

○ 飛んでるローカル 豊岡(映像) 2分20秒

<http://tonderu-local.com/>